



石巻 カーシェア 道中記

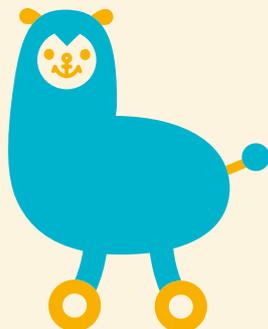
Ishinomaki
Car Share
Douchūki



シェアバカー1号
ストーン



※「ストーン（石）」と「ローラー（巻）」を
合わせて「石巻」なんです。



シェアバカー2号
ローラー

凸凹な山道を、一歩ずつよろめきながらもなんとか前に進んできました。私達によるめき倒れそうになった時、いつも支えてくださる方々がいてくれたお蔭です。日頃の感謝の気持ちを込めて、私達が歩んできた凸凹な道のりと、少しずつ見えてきたその先の風景をご紹介します。



日本カーシェアリング協会
Japan Car Sharing Association



被災地から生まれた『コミュニティ・カーシェアリング』



仮設住宅に住むカーシェアの利用者

●被災地から必要に迫られて生まれたカーシェアリング

6万台。宮城県石巻市において東日本大震災で人々が失った車のおおよその台数です。石巻も他の東北エリアと同様、車は生活必需品。生きるために必要な営みを再開させるため、皆さんなんとか車を優先的に買い戻していきましました。しかし、震災前は3〜4台の車を所有し、仕事や家族で使い分けていた世帯も多く、全ての車を買い戻すのはやはり厳しいのです。

そこで私たちは、そんな境遇の方々同士で一緒に車を共同で使う『カーシェアリング』というスタイルを提案していきました。2011年4月、車を集めるところから活動を始め、全国から善意で寄せられた中古車を、必要としている方々の元に届けていきました。

●都市部のカーシェアリングとはちよつと違う

私たちは現在、約80台の車を運用し、被災された方々や仮設自治会等だけでなく、支援団体やボランティアの方々にも活用しています。私たちのカーシェアリングは、都市部でレンタカー事業者が行っているカーシェアリングとは少し違います。

まずは、車を一緒に使いたい人同士でグループを作ってもらい、責任者を決めてもらいます。そして、そのグループに協会名義の車を貸し出します。私たちは使用料を頂きませんが、車に係る経費実費（燃料代・メンテナンス代・保険料・車検・自動車税等）をそのグループに支払っていただきます。予約の仕方、経費の捻出方法、鍵の管理について等は、その代表の方を中心にグループ毎に話し合っ決めてもらいます。

例えば予約の仕方だけでも、専用のノートを集会所のドアに設置して予約を管理する所もあれば、曜日毎に利用を決めている所、電話で連絡し合っ使っている所もあります。要はオリジナルなスタイルのカーシェアリングがそれぞれ行われているのです。その自由度の中で、利用者の方々と接しながら、グループに応じた私たちの提案を行い、住民同士の外出支援活動、定期的な地域清掃活動、利用者の方々が中心と

なつて自治会が結成されるなど、コミュニティ活動が育まれるようなサポートを行つてきました。

●EV導入で広がる可能性

2013年の夏、三菱自動車工業様から電気自動車（MIEV）8台をお借りして、EV（電気自動車）カーシェアリングを3箇所の仮設住宅自治会で始めました。この瞬間から、様々な社会貢献の可能性が私たちの活動の延長線上に生まれました。



電気自動車提供セレモニー

●復興公営住宅でのカーシェアリングに照準を合わせて

この取り組みを通じた私たちの目的は明快です。「石巻に市民型カーシェアリングの雛形を作る」ことです。その取り組みの中で最初から照準を合わせているのは、「復興公営住宅でどのようなカーシェアリングを実践するか」です。

大きいことを掲げていますが、なにを隠そう、私たちは、『ど』素人集団なのです。その筆頭が当協会代表の吉澤です。震災時はペーパードライバーで車に関して全く縁のない、ましてや「カーシェアリング」という言葉なんて一切聞



▲：利用者同士の話し合い ▼：住民同士の外出支援活動

他にも『エネルギー』、『インフラ整備』、『技術・教育』といった分野でも貢献できる可能性がある。と私たちは考え、現在は、その実現に向けて少しずつ事業を進めているところなんです。

カーシェア道中記の、始まり始まり！





ガリバーインターナショナル様から届いた中古車



仮設万石浦団地に初めてのテスト運行



カーシェアリング・コミュニティサポートセンターのスタッフになった利用者の方々



仮設万石浦団地に本格運行がスタート



一番最初にご提供いただいた車検付の車（タカラ物流システム様）

「やってみたら
どうや」の一言が、
全ての始まりでした。



石巻のカーシェアリング ができるまで

『やってみたらどうや？』 から始まった

東日本大震災の後、代表理事の吉澤（以下吉澤）は福島県に入り、関西への疎開サポートや避難所への炊き出しセットの設置、ローラー調査等様々なプロジェクトを立ち上げ、必死になってやっていました。2011年4月上旬頃、そんな吉澤に一本の電話がかかってきました。「たけちゃん（吉澤武彦）、福島島の帰りに一回東京に寄ってくれませんか？」東京タワーの一階で待ち合わせしたのは、元・神戸元氣村代表の山田パウさん。阪神淡路大震災で7年半に渡り支援活動をされた方です。「今避難所にいる方々は、も

私達の目的は石巻に『雛形』を作る事。

うすぐ仮設住宅に移る。そしたら行政主導で自治会が作られ、自治会長が選ばれる。その自治会長に、仮設でのカーシェアリングを提案する準備を今からやってみたらどうや？」と言われのがきつかけでした。その時初めて「カーシェアリング」という言葉を知りました。津波でめちゃくちゃになったたかさんの車を現場で見せて、「仮設住宅でのカーシェアリング」という言葉が心に響き「わかりました。引き受けます。」と、活動をそこに集中させていく事にしました。

●車集めく会社四季報を持って

震災当時、吉澤は大阪市内のビジネス街「堺筋本町」にある会社に机を間借りし、医療関係のプロジェクトの事務局スタッフをやっていました。まず最初に手に入れたのは、一冊の『会社四季報』。掲載されている一部上場企業を、近所から順番に自転車に乗って訪問していきました。内線で秘書課に連絡し、「被災地でカーシェアリングをやるために車を譲ってもらえないか社長に伝えてほしい。」と企画書を渡していきました。駐車場に社用車をたくさん停めている会社を見つけると訪問し、同じように内線を鳴らす。そんなことを徹底的にやっていきました。

見事なまでに断られ続けたのですが、そのうち色んな方が人を紹介してくださるようになっていき、やがて車を提供してくださる方が現れたのです。

●人柄探し

2011年6月、車の提供先を探すため、石巻に入りました。「車に関するアンケート」を作り、ボランティアの拠点に支援物資として届いていた手拭いを粗品として一人で携え、石巻市内中の仮設住宅をアンケート調査と称して訪問していったのです。実はアンケートの自身にはそれほど関心はありませんでした。この時取り組んでいたのは「人探し」。アンケートを口実に色んな会話をしながら、一緒にカーシェアリングに取り組んでくれる方を探していったのです。「人柄」を丁寧に確認しながら。すると仮設万石浦団地で見つかったのです。いい人が。

●3か月のテスト期間

2011年7月、組織を法人化し、最初の車を京都から石巻に届け、テスト運行が始まりました。すると報道機関が大きく取り上げてくださり、それを見た石巻警察になりました。そんな中、2012年1月、中古車販売のガリバーインターナショナル様から合計31台の中古車の寄贈を受けました。また、寄付集めに動いて下さった方々にも支えられ、必要な資金もなんとか集まりました。お陰様で、月10台位のペースでドンドン車を届けていく事ができました。

この時、実質スタッフ2名体制で説明会・登録・配車・利用者へのフォロー・車集め・資金集め・広報・経理の全ての業務に取り組んでいたのですが、それを石巻に集まった多くのボランティアの方々が手伝ってくださり、ジェットコースターのような日々をなんとか乗り越えていきました。

●カーシェアリング・コミュニティ・サポートセンター設立

2012年2月、石巻市の仮設住宅担当課が取り組みの必要性を理解して下さり、「カーシェアリング・コミュニティ・サポートセンター」を市のサポート機関として設立し、私達はその運営を受託する事になりました。そして利用者の方々の雇い入れ、石巻市内のカーシェアリングサポートを地元の方々と共に行う今の基本的なスタイルができました。

始める事ができました。

●ジェットコースターDAYS

メディアの効果で車両提供や寄付の申し出を続々といただいたのですが、それ以上に利用希望者が現れ、車もお金も足りない状態に

● 仮設万石浦団地の事例

2011年7月24日。私たちにとって最初の車を仮設万石浦団地に届けました。この団地は、様々な地域で被災された方々が入居していたため、人間関係を一から作らなければならぬ状況にありました。

カーシェアリングに関心を持ち、集会所に集まったのは5人。どういったシステムでカーシェアリングを行うのか話し合っていたいただきました。話題は、すぐにカーシェアリング以外のことに発展しました。仮設住宅敷地内でゴミが散らかっていることや、近所同士の会話が無いなど、当時の生活で気になっていたことです。そんな会話から、月1回のゴミ拾い、週1回のお茶会が生まれました。そうすると、その都度人が集まるようになり、カーシェアリングを行う新しいメンバーも増えました。そして、一人暮らしのお年寄りがタクシーで病院まで毎週通っている様子などが話題に上がり、メンバーの一人がその方の外出支援を始めたのです。

2011年秋頃、石巻市内の仮設団地では、行政主導で自治会を作ろうという話し合いがもたれていました。しかし、なかなか自治会役員の引き受け手がおらず、行政側は苦戦していました。一方、万石浦団地はその頃には既にコ

● コミュニティによるカーシェアリング

被災地にも時間と共に新しいコミュニティが形成されていきました。私たちが今取り組んでいるのは、「コミュニティによるカーシェアリング」です。もう少し具体的に表現すると「自治会が運営するカーシェアリング」です。

2013年8月に三菱自動車工業様の協力の下、電気自動車のカーシェアリングが始まったのですが、それらは全て仮設住宅自治会が運営しました。いずれの団地も外出支援活動が行われ、車の経費やドライバーの確保等の課題を抱えています。この活動により移動を助けられ、見守られているお年寄りはたくさんいらっしゃいます。

毎月2回、各団地のカーシェアリング担当者が集まり、情報交換を行いノウハウを共有するようになっています。車の維持費などは、各自治会が持ち回りで温泉旅行の幹事を行い、その参加費を車の経費に充てる「EV旅行」の試みも始まりました。結果として自治会同士の連携などもその情報交換の中から生まれました。

復興公営住宅において自治会が運営する電気自動車カーシェア



毎月利用者を訪ねるサポーター



EVカーシェアを運営する仮設大森第4団地自治会



仮設開成団地にて開かれたEVカーシェアを行う団地間の情報交換会



代表理事の吉澤以外全員地元出身でサポートセンターを運営

003 カーシェアリング的コミュニティ論



仮設万石浦団地でのカーシェアリングから生まれた清掃活動

アリングを私たちは目指し、その準備も兼ね、現在は仮設住宅での活用をすすめています。外出支援活動などの助け合いや旅行などの楽しみを生みつつ、万が一の時の予備電源として電気自動車の給電機能が活用され、さらに利用料を自治会ごとに設定し、自治会の財源となるようなモデルを作れたらと思っています。

● カーシェアリング・コミュニティ・サポートセンターの役割

地域の状況に応じた独自のルールの下、住民同士が助け合いを行っていくカーシェアリングを、シンプルに「コミュニティ・カーシェアリング」と名付けました。被災地に限らず、あらゆる地域に、こうした助け合いが起こりやすくなるような環境整備が必要だと思っています。

その一つが、今石巻で行われているような「カーシェアリング・コミュニティ・サポートセンター」の設置です。センターでは全体的な車両の管理のほか、カーシェアリングの導入・維持・発展のためのサポートを毎月1回以上の頻度で利用者を訪ねながら行っています。地域にポイントと車を置いておくだけでは、なかなか有機的に活用されないものです。そのコミュニティに応じた提案を必要所で行い、主体的で持続可能な助け合いを縁の下から支えていく。これから本格的に迎える高齢化・過疎化の時代に、このサポートセンターは大きな役割を果たすと思っています。サポーターとしてのノウハウを地元スタッフ一人一人が蓄積しながら、他の地域の参考になる雛形をこの石巻で作れたらと思っています。

● 送迎活動の効果

万石浦団地の事例の中にもあるような外出支援活動を行う方が今、私たちの利用者の中に7〜8人いらっしゃいます。住民同士の外出支援活動は、お年寄りの見守り、年金生活者や主婦のライフワークとして生きがい等を生み、携わる人たちのQOL（生活の質）が高くなっている様子がありありと表れていきました。

基本的には、車が不足している方々へ、「自身の生活のために使っていたけど、最優先に車を届けていきましたが、メンバーの中に前向きな方がいらっしゃると、「あそこのお婆さんが困っているらしいよ」と提案を行い、助け合いの具体的な行動に結び付けていきました。「人柄のよい方に提案して、行動していただく。」それが私たちのコミュニティの作り方の全てです。「安心して乗れる車」と、「何か貢献したいという前向きな気持ちを持った方」と、その気持ちを「後押しするサポーター」があれば、住民同士の外出支援活動や乗合等が起こるのです。



タイヤ交換をしている石巻専修大学の学生たち（理工学部機械工学科自動車工学コース）



『関係』を作る タイヤアップ

● 貢献したい企業の
熱い気持ちを形にする

今まで私たちがこの取り組みを維持発展させることができたポイントを1つ述べるとすれば、それは様々な「タイヤアップ」を成功させてきたことです。私たちが行ってきた「タイヤアップ」について、今までご協力いただいた方々のお顔を思い浮かべながら感謝の気持ちと共に紹介します。

私たちが活用する車は、毎年春と秋に石巻専修大学の学生たちの手によって、タイヤ交換をはじめ、各種メンテナンスが施されています。その際に必要なタイヤやオイルをはじめとする交換部品は全て、各メーカーが協賛してくださっているのです。東北の冬、車にはスタッドレスタイヤが必要品です。全国から集まる車に

はスタッドレスタイヤは当然ついておらず、数十台分が必要になりました。タイヤメーカーへ直接協力を相談させていただいたところ、なんと数日後には新品のスタッドレスタイヤを揃えてくださったのです。その手際の良さは圧巻でした（日本ミシュランタイヤ様、横浜ゴム様、東洋ゴム工業様、日本グッドイヤー様、住友ゴム工業様）。また、協力を打診した翌日、社長自ら電話をくださり、逆にお礼の言葉をいただいたオイルメーカーなどもありました（ルート産業様、三共油化工業様）。他にも様々な車用品のご協力をいただいております。（ワイパー・フィルター等：PIAA様、ホイール：トピー実業様、ウェッズ仙台支店様、ウオッシュャー液：ジョイフル様、バッテリー：ブロード様、カーナビ：バイオニア販売様、パナソニックカーエレクトロニクス様）

震災後、被災地へ貢献したい気持ち企業が活動に従事する方々の心の中にあり、どういう形で貢献できるか模索している状態がありました。誤解を恐れずに言うと、私たちが現場で協力を必要としているという情報をきちんと伝えることは、企業が必要としていることに応えることだと思っていたので、臆することなく協力を相談させていただきました。結果「待ってました！」と言わんばかりに、この学生整備プロジェクト

をはじめ、様々な協力をいただいたのでした。
例えば、カーシェアリングの利用状況を整理するシステムを作ったことだったり（NTTデータ様）、車に搭載するための防災グッズやペーパーズを提供して下さったり（大自工業様、大橋産業様、リーマン様）、さらには車両を提供して下さったり（ガリバーインターナショナル様、三菱自動車工業様）様々な企業が私たちの相談に応じてくださいました。

企業へ協力の相談をするとき、相手方へのメリットを示さなければと考える人もいますが、私たちはそういうことを言ったことはほとんどありません。私たちはただ、その協力がどれだけの貢献になるのかをきちんと伝え、協賛いただいた時にはそれらを最大限に活用し、より大きな貢献をすることに全力を注ぎました。私たちが背伸びをして協賛企業の経済的なメリットを作ろうとするよりも、「何か必要としている人が、必要なものを得る喜び」と、「人の役に立つことで、それを提供した人が得られる喜び」、その2つの喜びをきちんと作るこそが私たちの役割だと思っています。さらに、そうした喜びがきちんと生まれれば、最終的に経済的な効果（協賛企業へのご恩返し）も生まれてくるのだと思っています。

● 全国からの支援を
地域の助け合いへ



◀：データを整理をする社員ボランティア（NTTデータ様）
▶：協賛品として届いたタイヤ（日本ミシュランタイヤ様）



バスで姫路から整備に来てくれた学生たち（日本工科大学）

学生整備プロジェクトは、兵庫県姫路市の自動車整備専門学校である「日本工科大学」に協力していただいたところから始まりました。2011年の秋、2012年の春の計2回、それぞれ約20名ものメンバーが、石巻までバスで駆けつけ（片道1,000kmの道のり）、タイヤ交換をはじめとする車の整備を行ってくださいました。2012年の秋には、この取り組みを継続させるため宮城県内にある

被災地の多くの方々の心の中に「私もなにかできることをやりたい」という気持ちが生ええました。「今回の震災でたくさんの方々の支援をいただきましたが、これからは支援をする側になって恩返しをしていきます。」と私たちの車両整備に協力してくださいました地元整備工場の社長さんが、NHKのインタビュで語ってくれたこともありました。今、被災地には、地域の助け合いが生まれやすい素晴らしい土壌が、支援者の方々のおかげで生まれているのです。

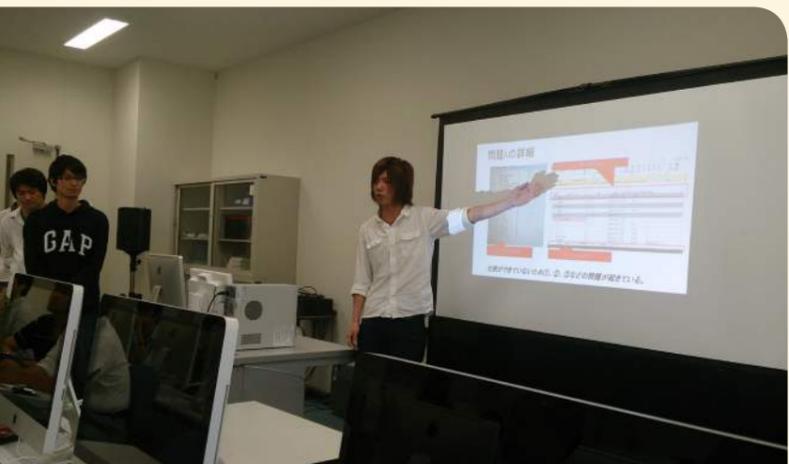
● 若い人たちの『経験』を作る
学生整備プロジェクトを行う中で、先生や学生たちから「よい経験だった」と喜びの声をたくさんいただきました。『経験』こそが人を成長させるものであると私たちは思っています。私たちの活動に必要なことが、地元の学生や若い人たちにとって、成長するための一つの人生経験になるなら、そんなにいいことはない。私たちはそのマッチングを探していき、この取り組み以外にもいろいろな機会を作っていました。

授業として協会の会計業務に取り組む石巻専修大学経営学部の竹中徹ゼミ。システム導入による管理業務改善に取り組む石巻専修大学経営学部の井道晴ゼミ。その他、私たちのトータルデザイン（ロゴ、ホームページデザイン）そしてキャラクター「Su:to:ストーン」と「Ro:in(ローリー)」と「石」と「巻」で合わせて「石巻」に取り組んでくださった東京学芸大学の正木賢一研究室。

● 中心にあるのは『関係』
私たちが活動を行う中で意識しているのは「関わりを作る」ということです。どんな小さなことでも協力していただき、この取り組みに参画していただくようになっています。例えば、使用済ぐんばら油で走る車も一台所有していますが、その燃料となるぐんばら油を仮設住宅に住むおばあさんに分けていただく。そこから関わりが生まれていくのです。（仮設住宅での活用後、現在はレンタカーとして貸出）

「赤門自動車大学校」に打診し、実施することができました。そして2013年の秋からは、石巻専修大学理工学部機械工学科自動車工学コース（山本憲一教授）に実施していただけることになりました。

私たちが意識したのは、「全国からの支援」を「地域の助け合い」に少しずつ変えていき「継続性」を作っていくということでした。全国から駆け付けた、支援活動に取り組む方々の姿に感動し、



▲：業務改善の提案を行う石巻専修大学の学生たち（舛井ゼミ）

▼：住民の方々に自分たちの考案したキャラクターを説明する東京学芸大学の学生たち（正木賢一研究室）

たちが受ける恩恵の優先順位は一番最後に位置させています。私たちが恩恵を受けることよりも、地元の若い人たちが成長する機会を作るという役割を、その地域コミュニティの中で果たすことが、はるかに大切なことなのです。

もちろん学校側も学生たちも、私たちの活動へ貢献しようという気持ちで臨んでいただいております。先生方や学生たちが熱心に取り組んでくださった結果、私たちが当初抱いていた期待を大きく超えた恩恵を受ける

たった1台の車から
育まれていった
多様な貢献のカタチ



車を使った 社会貢献への道



サポート・レンタカーで貸し出した車

● 引っ越しカーシェア

被災地では引っ越しが頻繁に行われます。仮設住宅やみなし仮設から新しい場所へ移られるのです。そして、2015年の春頃から復興公営住宅への入居が本格的に始まり、その動きが本格的になりました。そうした引っ越し需要に対応する支援として、三菱自動車工業様の協力で電気自動車の軽トラック（ミニキャブ M i e V ト ラ ッ ク）をカンパ

市では、仮設住宅から引っ越し際に10万円の補助金が交付されます。しかし、引っ越しにかかる費用は10万円で収まるようなものではありません。そこで、電トラを使い自分たちで引っ越しを行うことで経費を節約していただき、その分を新居で使う家具や家電の購入資金に充てていただいているのです。スムーズな引っ越しは、被災地の復興にとっても大切なことです。少しでもサポートできればと思っています。

● 東北ボランティア経験者を再び 招くためのレンタカー

私たちがカーシェアリングとして貸し出している車は、役割を終えて返却されてきた際、車検更新までの期間が短いものもあり、継続して活用するための車検代をどう捻出するかが一つの課題になっていました。そんな中、2013年12月にレンタカー事業の免許を取得しました。車検の更新期限が迫っている車をレンタカー登録し、有料で車を貸し出すことで、車検代などの維持費に充てるのです。車検を更新した後には、再びカーシェアリングや前述の貢献活動に活用するサイクルを作る事にしたのです。

被災地を訪れる人は年々少なくなっています。支援活動を継続する団体は、担い手や資金を確保するのに苦労している現状があります。そこで私たちは、東北で支援活動を経験された方と支援団体を寄付等でサポートされた方が、レンタカーを半額で使用できるという会員制度を新設しました。

支援団体の応援をしながら、同時にこれまで支援活動などで東北に足を運んだことがある方々に、もう一度来ていただく機会を各団体と連携して作るのがねらいです。支援活動の経験がなく、どの団体ともまだ縁のない方は、5000円以上の寄付をいづれかの提携支援団体にいただくことで、入



NPO 法人移動支援 Rera に貸し出した車

● NPO カーシェア

NPO カーシェアの取り組みは、石巻市内を中心に、被災された方々の移送支援を行っている「NPO 法人移動支援 Rera」という団体さんから「送迎用の車が足りない」という相談を受けたのがきっかけでした。話を聞いてみると、復興状況の変化や、助成金等によって財源が確保できるかどうかや、スタッフの増減といった諸条件に応じて、保有する車の台数を変えられることができると、すくなく助かるというのです。同じような悩みを抱える団体は他にもあり、継続的に支援活動や非営利の地域貢献活動を行っている団体に対して車を貸し出す「NPO カーシェア」（「継続支援カーシェア」という名称から後に変更）を開始することになりました。支援団体を応援する事で石巻を応援しようという取り組みです。カーシェアリングの利用者と同じように、使用料はいただくが経費のみ負担してもらっています。

● サポート・レンタカー

ある日、20代の女性から車がないために就職活動に支障をきたしているという相談を受けました。石巻の中心部から少し離れた、河南地区にある丘の上の仮設住宅にお住まいの方です。バイクで移動していたため通勤圏に限られ、雨の日や雪の日が困るという話でした。彼女に3か月という短期で車を貸し出すことにしたところ、市内で仕事を見つけてことができました。弁当販売を震災後に始めた若い事業家の方からは、販路を拡大するために弁当配達に車を使いたいという相談を受けました。これも短期で車を貸し出し、事業に取り組んでいただきました。私たちは、「家族の病气」「災害」「就業の意思のあるにもかかわらず経済的な事情で車を持ってない」といった事情がある個人や事業者に対して1か月単位で急場をしのいだり就業や事業再建のための車の貸し出しを行っています。最初の3か月を最低限の価格（軽自動車で1.5万円）で貸出し（災害の場合は最初の1か月無料）、3か月毎に料金がアップしていくステップアップ方式の料金設定となっています。急場をしのいだり、仕事を見つけていただき、後は安い車を手に入れる等して生活事業を再建して卒業（車を返却）していただくことを目指したシステムです。

地域で生まれる中古車を 地域のために活用する



仮設住宅からの引っ越しで電気軽トラックを活用（協力：三菱自動車工業（株））

● 地域貢献の一つのスタイルとして

2014年2月に埼玉県秩父市で豪雪災害が発生した際、地元市民団体から除雪用に軽トラックを借りたいと要望がありました。そこで、石巻で使っていた軽トラックの1台を秩父市に運び、活用していただきました。2015年9月の関東・東北豪雨の際も、災害の翌日から車を被災された方々および地元の社会福祉協議会などへ1か月無料のレンタカーやカーシェアリングによる貸し出しを行いました。私たちは全国からたくさんのお車を預かり、それらを活用させていただける立場にあります。これまで、ここ石巻で地域の復興・振興に貢献するため、様々な実践を行ってきました。そしてこれからも、先述の秩父市や関東東北豪雨の事例にあるような、他の地域でも実践できる成功事例を一つでも多く作っていきたいと思っています。これらの実践によって様々な効果が生まれてくれば、それぞれの地域で中古の車を集め、必要な人たちのために活用していくという私たちのスタイルを、各地に提案していけるのではないかと考えています。



埼玉県秩父市の豪雪災害で活躍した石巻の軽トラック



レンタカーで石巻を巡る支援者の方々



レンタカー手続きをする石巻でのボランティア経験者



車から 未来を作る



EV旅行に下見の際、登米市役所にてEVの充電環境などについて伝えている様子

● 利用者の夢から始まった

2012年10月、私たちがカーシェアリング事業を実施していた仮設万石浦団地にて、利用者間交流の催しとして電気自動車（EV）の試乗会を行いました。市内のディーラーさんに協力していただき実現した企画です。当時私たちが使っていたのはガソリン車ばかりだったため、物珍しさもあつたのか、思った以上の盛り上がりとなりました。この時、「復興住宅に移ってから、電気自動車でカーシェアリングできたらいいなあ。」と、参加者の一人が夢を語るようにおっしゃいました。

EVメーカーである三菱自動車工業様にその声を伝え、協力のご相談をしたところ、2013年8月から電気自動車「i-MiEV」6台を無償貸与していただけることになりました。カーシェアリング・コミュニティサポートセンターの予算で充電施設を設置し、念願だったEVカーシェアリングがいよいよ動きはじめた瞬間でした。

● EVを仮設住宅でフル活用

全国のEV保有台数は、四輪車の登録総数に対してごく小さな比率でしかなく、ユーザーの

● 車から電気を取り出す 石巻市防災訓練

被災地でEVを活用する意義は、何と言ってもEVが非常用の電源になるということです。電気のない辛い生活を数か月間も経験された石巻の方々にとって、そんな車が身近にあるだけで安心感が生まれるのです。

石巻市は年に一度、市全体で取り組む総合防災訓練を実施しています。これに合わせ、各地の自治会等がそれぞれの方法で防災訓練を行っています。2013年10月に行われた仮設大橋団地の防災訓練で、給電のデモンストレーションが実施されました。i-MiEVから電気を取り出し、照明を灯すというものです。



仮設団地に設置したEVの充電設備

その1年後の2014年には、給電デモンストレーションを実施する防災訓練は、5箇所の仮設住宅に広がりました。しかもその内容は、EVから取り出した電気でポットのお湯を沸かし、コーヒーを淹れて参加者にふるまったり、非常用のアルファ米でごはんをつくったり、そうめんを茹でたりと、各地で工夫を凝らしたデモンストレーションが実施されました。

EVから電気を取り出す訓練を住民主体で行う事例は、全国的に珍しいように思います。しかも、同時に5箇所も実施する地域は更に希ではないでしょうか。仮設住宅でEVカーシェアの取り組みを始めてから1年半。EVは日常の足になるだけでなく、非常時の給電設備としても活用できるということが、少しずつ石巻の仮設住宅の中で浸透してきたように思います。

● 復興公営住宅での エコEVカーシェアリング

2014年5月に行われたEVの寄贈式の際、石巻市の亀山市長にも出席していただきました。市の前に市長と少し立ち話する時間があり、「復興公営住宅で自然エネルギーを活用したEVカーシェアリングを実現したいので協力し

てほしい。」と市長に申し出ると、「もちろん」と快諾してくださいました。

このときの立ち話を公式なものにするため、2014年9月、市長宛に協力の要望書を提出。11月には協力を約束する正式な回答をいただきました。それを受け、11月24日に市役所の5つの課の課長、地元の大学（石巻専修大学、東北大学）の先生、メーカー、技術コンサルタントの方々を中心とした検討委員会を設立し、まず1箇所の復興公営住宅にて社会実験を行うことになりました。

私たちが考えるその社会実験では、EVの充電に太陽光エネルギーを活用し、普段はEVを住民の足として使い、災害などによる停電時には独立した発電装置として電気を供給。しかも、給電設備を搭載したEVは復興公営住宅敷地内で使うだけにとどまらず、必要なところがあればEVを走らせて電気を運搬することもできます。太陽光パネルとEVを中心としたエコ防災システムを実現し、そこから生まれる社会的効果を検証します。

財源確保に苦労しましたが、約半年間の協議の末、三菱商事復興支援財団様、三菱電機様、P&G社員ボランティア基金様から助成いただけることが決定し、更に三

菱電機プラントエンジニアリング様をはじめとするシステム導入にご協力いただいた企業様方のご協力のおかげもあり、2015年6月、吉野町復興公営住宅への設備導入を実現することができました。今まで、それぞれの現場に合わせて私たちに取り組みを進めてきましたが、今回の社会実験では、専門家や様々な立場の方々と共に本格的なモデル化を行っています。そうしてできたモデルを雛形にし、最終的には5箇所くらいに設置し、徐々に石巻市全体にこのエコ防災システムを拡げていき、一つの地域モデルとして構築することを目指します。

このエコ防災システムは、自然エネルギーで充電するEVを地域住民が管理運営するだけです。石巻だけでなく、他の地域でも簡単に転用できると思います。

復興住宅でカーシェアリング。利用者の夢が叶いました！



▼: 仮設大橋団地におけるEVを活用した防災訓練



日本カーシェアリング協会のレンタカー

🌸 レンタカー料金表 🌸

東北ボランティア経験者、支援団体を支援する方は、メンバー価格（半額）

※ガソリンは満タンでお返しください。ご都合により満タンでお返しにできない場合には、当社にて定める走行キロ換算料金によりご精算させていただきます。
 ※カーナビ・ETCは車種によって設置状況が異なるので、予めご確認ください。尚ETCはカードをご持参下さい。
 ※ご利用の際は、必ず事前に予約してください。（少数人員の為、営業所に滞在していない場合がございます）
 ※車種は流動的なため、ご利用の度に事前にご確認ください。
 ※料金のお支払は予定料金を出発時に申し受け、帰着時に過不足分を精算させていただきます。
 ※予定時間から48時間以内のキャンセルにつきましては、予定料金の50%の予約取消手数料を申し受けます。
 ※早朝等の営業時間外の貸し出しは、別途料金がかかります。

	6時間	6時間以上、営業時間内	24時間	以降1日ごと	1週間	1ヶ月	超過料金 / 1時間
電気自動車	5,000円 (2,500円)	6,000円 (3,000円)	8,500円 (4,250円)	7,000円 (3,500円)	50,000円 (25,000円)	130,000円 (65,000円)	1,000円 (500円)
軽自動車	3,500円 (1,750円)	4,500円 (2,250円)	6,000円 (3,000円)	5,000円 (2,500円)	30,000円 (15,000円)	70,000円 (35,000円)	1,000円 (500円)
軽貨物車	4,000円 (2,000円)	5,000円 (2,500円)	7,000円 (3,500円)	6,000円 (3,000円)	40,000円 (20,000円)	96,000円 (48,000円)	1,000円 (500円)
小型乗用車	4,000円 (2,000円)	5,000円 (2,500円)	7,000円 (3,500円)	6,000円 (3,000円)	40,000円 (20,000円)	96,000円 (48,000円)	1,000円 (500円)
普通自動車	5,000円 (2,500円)	6,000円 (3,000円)	8,500円 (4,250円)	7,000円 (3,500円)	50,000円 (25,000円)	130,000円 (65,000円)	1,000円 (500円)
天ぶらカー (キャンピングキット付)	7,000円 (3,500円)	9,000円 (4,500円)	12,000円 (6,000円)	10,000円 (5,000円)	60,000円 (30,000円)	170,000円 (85,000円)	2,000円 (1,000円)
ミニバン	10,000円 (5,000円)	12,000円 (6,000円)	18,000円 (9,000円)	15,000円 (7,500円)	95,000円 (47,500円)	270,000円 (135,000円)	2,000円 (1,000円)
天ぶらカー (8人乗りハイエース)	11,000円 (5,500円)	13,000円 (6,500円)	20,000円 (10,000円)	16,000円 (8,000円)	100,000円 (50,000円)	300,000円 (150,000円)	2,000円 (1,000円)
バン	8,500円 (4,250円)	9,500円 (4,750円)	14,000円 (7,000円)	10,500円 (5,250円)	70,000円 (35,000円)	189,000円 (94,500円)	2,000円 (1,000円)

※表示価格は通常価格、()内はメンバー価格です。※税別。料金は2015年9月現在のものです。



石巻エコEVカーシェアリングシステム導入セレモニーの様子

ETCとナビとチャイルドシートについて

搭載している車と、していない車がございます。お申し込みの際、ご確認ください。（搭載している車に関しては、無料でお使いいただけます）チャイルドシートとジュニアシートもご希望の際は無料でお使いいただけます。

ご用意いただくもの

出発時に運転される全ての方の免許証をご提示願います。合せて、現住所を確認できる公共料金の領収書もしくは保険証をご提示ください。

ノン・オペレーションチャージ(NOC)

レンタカーの使用中に事故を起こし、車両に損害を与えた場合には、損害の程度や修理期間に関わらず、営業補償の一部として下記のノンオペレーションチャージを申し受けます。
 ・自走可能な場合・・・2万円
 ・自走不可能な場合・・・5万円
 ※別途レッカー代等の車両移送費はお客様負担となります。

保険・補償制度

当協会の車両には、下記の金額を限度として保険その他の制度による補償が付いています。但し、補償額を超えたもの、免責金額及び保険約款の免責事項に該当する事故、貸渡約款に違反する事故及び使用による損害は、原則お客様負担となります。
 対人：無制限、対物：無制限(免責額 5万円)、人身傷害：3000万円/1人(乗車中のみ)、車両：時価額(免責額 5万円)

ご予約方法

電話もしくはメールにてご連絡ください。（メールの場合お名前、ご住所、生年月日、電話番号、希望車種、利用開始日時、利用終了予定日時をご記名の件名「レンタカー予約申し込み」をお願いします。）

予約専用アドレス:yoyaku@japan-csa.org
 電話番号：0225-22-1453

半額制度について (CLUBRO:LY)

東北での支援活動（ボランティア・寄付等）が確認できた方はメンバー価格（半額）で利用いただける制度です。写真や資料等の当時の活動を証明できるものをご持参ください。関わった支援団体の紹介等でも大丈夫です。もし証明できるものがなければご相談いただければ、信頼いたします。東北の支援活動に携わった事がない場合は、貸渡し当日に入会金の代わりに右記の提携支援団体へ5,000円以上の寄付をいただければ以後メンバー価格（半額）でご利用いただけます。

提携支援団体

一般社団法人 OPEN JAPAN / 古民家再生IBUKIプロジェクト / 「3月10日」制作室 / 石巻仮設住宅自治連合推進会 / NPO 法人移動支援 Rera / こはく (白空 / CoHack) / TEDIC / 公益社団法人日本医療社会福祉協会 (JAWSWS) / 石巻 NOTE (NPO 法人 Switch) / Highbridge (石巻海さくら) / 一般社団法人みらいサポート石巻 / 一般社団法人 BIGUP 石巻 / NPO 法人キャンパー / NPO 法人応援のしほ / 一般社団法人はまのね / 東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) / 一般社団法人 キャンパス東北 / 一般社団法人 ビースポード災害ボランティアセンター / 一般社団法人 イトナブ石巻 / 一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 / 一般社団法人 つむぎや / NPO 法人スマイルシード / NPO 法人 ハルシツク / NPO 法人 石巻復興支援ネットワーク (やっぺす) / NPO 法人 にじいろクレヨン / 住民任意団体 WE ARE ONE 北上 / め組 JAPAN / こども♡感ばにー / おだっぺり / いしのまきカフェ / NPO 法人 JEN / 日和キッチン / タイマッサー / 石巻応援隊 / 公益財団法人 共生地域創造財団 / 一般社団法人 オアシス / 認定 NPO 法人 カタリバ / 一般社団法人 リびらす / 一般社団法人 プロジェクト結コンソーシアム ... 等
 ※随時追加加盟いただいておりますので詳しくはホームページをご確認ください。

夢を描いて、できることから行動し続ける

2014年12月15日、地の工藤電機様主催のEVコンバージョンセミナーが石巻専修大学で行われました。私たちも、整備工場の方々と共に参加しました。EVコンバージョンとは、ガソリン車を電気自動車に改造することです。全国から寄付していただいた車は、古い車もあり、故障したり、燃費が悪い場合もあります。それらの車のエンジンをモーターに取り換え、EVコンバージョンすることで、高燃費の車に生まれ変わり、再び活用できるようにになります。寄付していただいた車をいつまでも大切に使い続けたい。そう願ったときの一つの選択肢がこのEVコンバージョンです。

2015年から、市内店県内からの車の寄付募集を発売に行うようになりました。2015年1月に発行された石巻の市報に案内も掲載され、地元からも車が集まるようになってきました。これまでは、全国から寄付された車を活用した取り組みを行ってききましたが、地元で車を集め、そこに暮らす人々のために活用しつつ、それが少しずつEVにコンバージョンされていくことで、より環境負荷の少ない社会を作っていく、そんな好循環を生み出していければと



バッテリーが積まれEVコンバートされた車



復興住宅でのEV導入に向けた第1回検討委員会

願っています。夢はいくらでも広がっていきま。私たちは思い描いた夢に正面から向かい合ってきましたし、これからも向き合っていきたいと思ます。さまざまな壁が立ちちはだかり、苦労することも少なくないでしょうが、夢を描いて、できることから行動し続けられれば、きっと実現すると思っています。そして、そこで得た経験を今まで支援していただいた皆様の住む地域に還元することこそ、恩返しであり、あるべき復興の形ではないかと私たちは考えます。

軽自動車・軽トラック募集

被災地で活用させていただく車両を募集しています。カーシェアリングはもちろん、生活支援や事業支援のための貸し出し等様々な貢献活動に活用させていただきます。



< 振込先口座 >

ゆうちょ銀行：記号14370 番号11142661
(店名 四三八 店番 438 普通 1114266)
口座名義：一般社団法人
日本カーシェアリング協会

太陽カーシェア募金

復興公営住宅で自然エネルギーを活用した電気自動車カーシェアリング実施のためにご協力をお願いします。

太陽光で電気自動車を充電し、それを住民が運営することで移動・防災・コミュニティの助け合いを作る『石巻エコEVカーシェアリング事業』を推進しています。この実施するための設備導入経費の協力を募集しています。震災後に生まれた助け合いの心と地球にやさしいテクノロジーで最高のモデルを石巻にするためにご協力をお願いします。

ご寄附 一口1,000円 ※一口以上も大歓迎

左記の口座に振込後、メールもしくは電話にてお名前・ご連絡先・ご住所・口座をご連絡ください。
※寄付いただいた方のお名前をホームページに掲載させていただきます。(任意)

賛助会員募集

日本カーシェアリング協会では当協会の趣旨に賛同し、賛助会員として当協会活動を支援して下さる個人や団体の賛助会委員を募集しております。

< 特典・入会方法 >

当協会の活動内容等を紹介したメールニュースを不定期にお届けいたします。左記記寄付振込口座に会費をお振込みの上、当協会までFAX、E-mail、お電話にてご連絡ください。

法人・団体賛助会員 80,000円(1口)
個人賛助会員 5,000円(1口)



お問い合わせや
ご相談はこちら！



レンタカーの
貸し出しはこちら！



駅から車で約15分

カーシェアリング・コミュニティサポートセンター
〒986-0005 宮城県石巻市大瓜字鷲ノ巣 45-1
仮設大瓜団地集会所内



駅から徒歩で約7分

OPEN JAPAN レンタカー営業所
〒986-0821 宮城県石巻市住吉町 1-1-2
(旧みうら内科)



一般社団法人
日本カーシェアリング協会
Japan Car Sharing Association

※日本カーシェアリング協会はOPEN JAPANのプロジェクトです。
※この事業は赤い羽根『災害ボランティア・NPO活動サポート募金』の助成を受け実施しています。
※この冊子の原稿は、EIC ネット「エコナビ」での連載原稿を元に作成しております。
character & logo design : 東京学芸大学正木賢一研究室
editorial design : 吉田耕作

TEL: 0225-22-1453

Mail : info@japan-csa.org (総合)
Mail : yoyaku@japan-csa.org (レンタカー)
URL : http://japan-csa.org
営業時間：平日9:00～18:00

※16:00以降にOPEN JAPAN レンタカー営業所へお越しいただく際は事前にご連絡ください。
※早朝等の営業時間外や週末も事前にご連絡頂ければご利用頂けますので、気軽にご連絡ください。



OPEN JAPAN
www.openjapan.net